

第2回 魅力ある教育環境のあり方検討委員会 議事録

日時：令和8年8月17日（月）18:00～20:00

会場：珠洲市民図書館 会議室

出席者：

			所 属	氏 名	備 考
委 員	1	保護者代表	上戸小学校 PTA	加藤 宗和	
	2		飯田小学校 PTA	新 勇人	
	3		直小学校 PTA	吉田 孝宏	副委員長
	4		若山小学校 PTA	岡田 高志	
	5		正院小学校 PTA	小谷内 隆之	
	6		蛸島小学校 PTA	増田 渉	
	7		みさき小学校 PTA	畠口 孝幸	
	8		緑丘中学校 PTA	藤瀬 政寛	
	9		三崎中学校 PTA	谷内 幸	
	10		宝立小中学校 PTA	坂尻 倫昭	
	11		大谷小中学校 PTA	村上 ゆり	
	12		つばき保育園保護者	田喜知 康大	
	13	地区代表	宝立地区区長会 会長	多田 進郎	
	14		上戸地区区長会 会長	吉田 亮	
	15		飯田地区区長会 会長	泉谷 信七	
	16		若山地区区長会 会長	奥家 康志	
	17		直地区区長会 会長	高井 正裕	
	18		正院地区区長会 会長	坂尻 孝司	
	19		蛸島地区区長会 会長	梧 光洋	
	20		三崎地区区長会 会長	辻 一	
	21		日置地区区長会 会長	糸矢 敏夫	
	22		大谷地区区長会 会長	丸山 忠次	
	23	学校関係者	珠洲市校長会 会長	河元 智志	
	24		珠洲市教頭会 会長	桑名 和宏	
	25	学識経験者	金沢大学 准教授	加藤 隆弘	委員長
事 務 局	珠洲市		珠洲市長	泉谷 満寿裕	
			珠洲市教育長	吉木 充弘	
			珠洲市教育委員会事務局長	山口 茂樹	
			珠洲市教育環境魅力化推進室長	倉見 倫代	

1 開会

開会挨拶 珠洲市長 泉谷 満寿裕

前回 6 月 29 日の第 1 回検討委員会では、魅力ある教育環境のあり方について、具体的かつ活発なご議論をいただいた。本日は、その確認をさせていただいた上で、学校再編について、また統合小学校の場所をどうするかということについても、具体的にご議論いただきたい。

前回の議論の中で頂戴したご意見をふまえ、珠洲市の施策・取組の説明もさせていただく。意見交換では、ご遠慮なく活発にご議論いただきたい。

2 議題

- (1) 第 1 回 魅力ある教育環境のあり方検討委員会の意見整理・・・資料 1
- (2) 学校再編案について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 2
- (3) 統合小学校の用地について・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 3
- (4) 珠洲市の取組・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料 4

3 意見交換

加藤委員長

前回の委員会以降、各地域や学校現場で、事務局から示された再編パターンについて議論や調査をしていただいたと伺っている。本日は、その集約結果を共有するとともに、新しい小学校の建設用地についても意見をいただきたい。

谷内委員

前回の委員会の後、新聞報道で「三崎中学校が残らない」という記事が出て、子どもたちも保護者もずいぶんざわざわし、私自身も落ち着かない感じになった。7 月 12 日に、9 世帯のうち 7 名と中学校運営委員の地域の方 1 名に参加いただき、子どもたちの意見も聞いてきてほしいとお願いした上で、皆さんの意見を聞いた。

皆さんの意見は、「統合すると仲間外れにならないか心配」「学校が遠くなる」「何よりも突然すぎて何も聞いていない」というものだった。また、生徒数が少ない分、先生方が手厚く指導してくださり、テスト期間中も放課後に勉強を教えてくれるので、三崎中学校の存続を考えてもらえないかという話もあった。

今の 1 年生 3 名について、入学後に学習上の特性が分かり、先生方が子どものペースに合わせて大変手厚く指導してくださっているという話を聞いた。フリースクールとは違って、きちんと授業はしながら、子どもがマイペースで学べて手厚く見てもらえる学校があってもいいのかなと感じた。一方、みさき小学校の 6 年生 6 人に中学校はどこへ行きたいか聞いたところ、全員が緑丘中学校と答えた。

畠口委員

みさき小学校の存続について、児童・保護者に賛否のアンケートを実施した。保護者代表の意見として一番多かった意見を述べることを伝えた上で協力いただいた。結果は、統合に賛成 36、反対 22、どちらでもよい 11、分からない 1 であった。反対は児童 15 名、保護者 7 名で、特に高

学年児童の反対が多かった。

反対意見では、「思い出がなくなるのが寂しい」「三崎地区から小学校がなくなるのが寂しい。なくなると子どもたちの声がなくなる」「アットホームなところ、先生・児童・保護者の距離感がよい」「伝統文化を伝える人がいなくなるのではないかな」などがあった。

賛成は児童 11 名、保護者 25 名で、特に低学年のいる保護者で多かった。「児童が増えることで交友関係や楽しみ、刺激、競争心が高まる」「複式学級による不便さがなくなり、集団行動やコミュニケーション能力が高まる」「保育園で一緒にいるのに、小学校で分かれるのは子どもにとってよいこととは思わない」「少人数のメリットも感じるが、1 学年 10 人を切る現状ではコミュニケーションの多様性や外部への関心、学びの広がりには不安がある」という意見があった。児童からも「友達が増えてみんなで授業を受けられる」「保育園で仲がよかった友達と一緒にいい」「たくさんの友達とスポーツがしたい」といった声があった。みさき小学校の保護者代表として、統合に賛成する意見としたい。

坂尻委員

宝立小中学校の保護者全員に前回の資料を配り、保護者の意見を集めた。宝立小中学校を残すことに賛成という方が約 7 割で、反対は 7 世帯であった。

反対意見では、保育所で一緒だった子どもたちが小学校で分かれることへの懸念があった。また、児童生徒数減少の推移を資料を見て、「後々の方向性が見えるのであれば、少しでも早く統合した方がこの子たちのためになるのではないかな」という意見があった。反対の方にどの案がよいか聞いたところ、皆さん B 案だった。ただし、「なくなってもよい」ということではなく、現状を踏まえ、方法として統合するのであれば仕方がないのではないかなという意見であった。

加藤委員

上戸小学校でも、学校再編の A、B、C 案に絞ってアンケートを取り、B 案が一番多かった。保護者と話している中では、みさき小学校については、三崎の方々の思いをくみ取ることが一番ではないかなという話が多かった。

統合に賛成する意見としては、「三崎中学校と緑丘中学校が統合するのであれば、小学校も小学校の時点で統合した方がよいのではないかな」「保育所も一緒だったため、進学するのであれば緑丘の方がよいのではないかな」というものがあった。反対意見としては、「集約しすぎると通うのが大変な方が増えるのではないかな」というものがあった。また、学校数が減ることで学校職員の負担も減らせるのではないかな、学校を残しても近い将来また同じ議論をすることになるのではないかな、統合するのであれば一度に進めればよい、という意見もあった。

新委員

飯田小学校ではアンケートは実施していない。学校再編の前提条件である緑丘中学校校区内の小学校であるため、保護者の皆さんは統合について理解されているものと感じている。

岡田委員

若山小学校ではアンケートは実施していない。保護者のいろいろな集まりの場で統合の話は出

ている。児童数の状況を考えると「統合は仕方がない」という受け止めが多いと感じており、私自身も統合に賛成である。

小谷内委員

正院小学校でもアンケートを取りたいと思い、「アンケートに答えてください」という話をしたが、その前に皆さん新聞記事を見られていて、「ほぼ統合案の話になっている。それについて今から言って変わるのか」という話になった。統合後に残った校舎をどうするかという話が出た。

緑丘中学校の方に小中をまとめる形にすれば、中学校には空き教室もあるのではないかと、そこに小学校を入れた方が送迎や、保育所、中学校、飯田高校という動線の面でも便利ではないか、という意見も出た。一方で、緑丘中学校は校舎の耐久性が一番の問題になると思われる。

統合して残った小学校は、公民館のように利用していかないと、まちの空洞化が早くなるので活用したいという話がある一方、その維持にはコストの問題もある。正院小学校自体も老朽化しているので、残すことへの疑問もある。これといった一つの意見にまとめるのは難しかったが、6校が中学校で一緒になるということについて、強い反対は少なかったと感じている。

藤瀬委員

統合するのなら全部まとめた方がよいという意見もある一方で、少人数の学校のメリットもある。特に義務教育学校は、子どもが選択できる学校として残してはどうか。統合して使わなくなった学校も、大学等のサテライト校のように、その地域が得意なことやコースを設け、学ぶ内容によって場所を選べるような使い方があってもよいと思う。

村上委員

大谷小中学校は、どの案でも残る形になっているので、PTAとしては皆さん喜んでいる。アンケートは特に取っていない。今は、大谷小中学校に特色をつけて残していくという方向で、その議論を少しずつ始めている段階である。案については、個人的にはみさき小学校、宝立小中学校の方々の意見を反映していければよいと思う。

田喜知委員

つばき保育園に通う園児たちが今後の学校再編に大きく関わるため、保護者の関心は非常に高い。アンケートは取れていないが、多くの保護者から「今どうなっているのか」と聞かれる。保育園の保護者は、一度保育園で集まった子どもたちが、小学校でまたばらばらになってしまうことを懸念している。

小学校がなるべく早い時期に統合されれば、そのまま保育園のメンバーで小学校に通い、中学校でもあまり変わらない顔ぶれで進むことができる。保育園、小学校、中学校と長期にわたって同じメンバーで関わることで、より結束も強くなるのではないかと。一度小学校でばらばらになると関係性がいったん途切れ、中学校でまた一緒になった時にも影響があるのではないかと。統合を進めるのであれば、なるべく早急に進めてほしい。

吉田副委員長

直小学校では、校区内 6 小学校の一つということで特にアンケートは実施していない。何人かの保護者と話したところ、大谷、宝立、三崎にはそれぞれ考えがあるので地域の考えを尊重しつつ、子どもにも選択肢を持たせた方がよいのではないか、という声があった。学校が存続するから地域の学校へ行かなければならないということではなく、子どもの希望、各家庭の希望も尊重した上で進めてほしいという意見である。

また、学校が分かれることで子ども同士が疎遠になることについて、自分の子どもの例を話したい。子ども 2 人は正院保育所を卒園し、今は直小学校に通っている。正院保育所から正院小学校へ行った友達と公園や図書館などで時々会った際、名前を教えても、なかなか打ち解けるまで時間がかかることがある。子どもは子どもなりに、人間関係の面で影響があるのだろうと感じた。

多田委員

宝立地区では、細かく全員に聞いたわけではないが、公民館長にお願いして、公民館に出入りする方々約 70 名に資料を見てもらい、どの案に賛成かを聞いた。統計的に正しいかどうかは分からないが、B 案は 2 割程度、A 案が 6 割以上、C 案が 1 割程度であった。

C 案を選んだ方からは、それぞれ地域の事情や学校の老朽化、遠距離通学などを考えると、みさき小学校は当分そのままよいのではないかという意見があった。宝立小中学校 PTA から先ほど示された結果と、だいたい同じような傾向だった。

吉田委員

地域によって温度差があると思う。緑丘中学校校区の我々としては、あまり反対という意見は出ておらず、「仕方がないだろう」という受け止めが多い。新しい学校を中心部に建てるとすれば、そこから離れれば離れるほど、地域でどうすべきかを考えなければならないという意見になってくると思う。

泉谷委員

前回欠席しており、飯田地区で意見を聞くことができていないので、今回帰ってから聞いてみたい。飯田小学校 PTA とは別であるが、飯田地区の一般の住民からは「なぜ統合しないんだ」「早く統合を進めるべき」という声を聞くことが多い。ただし、一部の人の声が私のところに届いているだけかもしれないので、もう少し詳しく意見を聞き、次回にお話したい。

奥家委員

今ほど何人かの方もおっしゃったとおり、三崎、宝立の方々の意見を第一に尊重して進めていきたい。個人的には、この 3 案の中で選択肢が一つでも多い方がよいと思っているので C 案がよいが、当事者の意見を尊重していただきたい。

高井委員

直地区は統合の要望を出しており、統合そのものには賛成である。A、B、C のどれにするかという点は、三崎の方々の要望、意見を一番尊重しなければならないと思う。今の話を聞いていると、みさき小学校の方は統合でもよいという感じを受けた。

建設場所によっては開校が令和13年、14年で、まだ5、6年先になる。その時の児童生徒数の将来推計を見ると、宝立も三崎もさらに少なくなっている。感覚的な意見となるが、今から5、6年の間に、「統合すればよかった」「統合小学校に行きたい」という気持ちに変わる子どもや保護者が多くなるのではないかな。

坂尻委員

正院地区の区長の方々に確認したところ、B案がよいのではないかなという話だった。理由は、児童数が減ってきており、今は地区の考えより、市全体で考えていかないといけない時期ではないか、というものである。しっかりした学校にして、子どもたちがのびのびできる環境にした方がよいという意見である。

梧委員

宝立小中学校は新しく建設され、まだそれほど年数が経っていないので、使わなくなるのはコスト面でももったいないと思う。大谷もそうだが、そういうことも理由となり宝立存続の方向になっているのだと思う。

三崎については、児童生徒数は確実に減っていくと思う。近所でも若い夫婦が出て行く状況があり、長期的に見れば減る。あくまで私見だが、三崎も統合という方向で考えていただけたらと思う。

辻委員

三崎中学校の話し合いにも参加した。みさき小学校のアンケート結果も見ている。子どもたちは「まだ残りたい、残してほしい」という思いで、保護者は「どちらでもよい」というような雰囲気を感じる。私個人としては残してほしい。

糸矢委員

今の話を聞いていると、減ることを前提に話をされていて、少しでも増やそう、現状を維持しようという話が全く出てこない。それだったら統合しても一緒ではないかと、個人的には思う。

例えば中学校は緑丘に集めるとしても、小学校は外浦につくるという考え方もある。外浦は人口が少ないから遠くても通える、という整理だけでは地域内格差はなくなる。中心部に全部集めるのが一番効率的で、保育園も学校も送り迎えは便利だが、地域的に考えれば、それぐらい発想を転換してもよいのではないかな。外浦には海も山も近く、里山里海を学ぶ環境がある。

丸山委員

大谷小中学校は残していただけるということなので、特に地区の意見は聞いていない。できる限り子どもたちの声も聞いてほしいし、地域を元気づけるという意味では、地元にあるのが望ましいと思う。

ただ、人口が減り、子どもたちがいなくなるのは現実であり、大谷もいずれ閉校になる可能性はある。そうすると、高校1つ、中学校1つ、小学校1つという状況になりかねない。5年後、10年後を考えて、今の統合について検討していただきたい。

泉谷市長

できるだけ早く答えを見出して進めていきたいという思いがあり、どこかで確定しなければならない。前回も申し上げたが、宝立小中学校は残す方向とし、宝立小中学校に通う区域の子どもでも「緑丘に行きたい」、逆に区域外の子どもでも「宝立小中学校に行きたい」という自由度を持たせることができればよいと思っている。大谷小中学校と宝立小中学校は残す方向で、あとは三崎をどうするかである。

三崎中学校については、当初、児童生徒や保護者が「来春からでも緑丘に通わせてほしい」ということであれば急ぐべきだと思っていたが、今の段階ではそれほど急がなくてもよいのではないかと受け取っている。今の1年生が卒業するまで三崎中学校を維持していくことも可能である。

みさき小学校についても、統合小学校の開校までにはまだ時間がある。統合小学校の校舎デザインなどの具体像をご覧いただいた時に、三崎の方々が「統合小学校がよい」となればそちらへ行けるし、「それでもやはり三崎だ」となれば三崎にとどまることもできる。多少選択の余地を持って進めることは可能なのではないかと考えている。

畠口委員

役員の中でどちらか一つに決めるのは難しいと思ったので、アンケートを行い、一番多かった意見を保護者代表の意見として述べることを伝えて実施した。その結果を踏まえ、みさき小学校の保護者代表としては統合に賛成意見である。

谷内委員

みさき小学校の高学年は「みさき小学校を残してほしい」という意見が多い。ただ、統廃合は3、4年後の話なので、その子たちは卒業している。高学年は5年、6年と過ごして愛着があるから残してほしいという気持ちがあるのだと思う。一方、低学年では「保育所が同じだったのに、ばらばらになるのは寂しい」と統合に賛成する意見が多いという数字が出ていた。

三崎中学校については、今の1年生3人を三崎中学校で卒業させてほしいというのが希望である。中学校の先生も、6年生が難しければ5年生にも三崎中学校をPRして、来てほしいという働きかけをしていきたいと話している。ただ、みさき小学校の高学年は「小学校を残してほしい」と言うのに、なぜ中学校は緑丘を選ぶのかと聞くと、「みんなが行くから」という、それだけの理由だった。

吉木教育長

三崎中学校は、今の3年生が卒業すると3名だけになるので、その3名は緑丘中学校に行きたいと思うのではないかと少し心配していた。しかし、子どもたちや保護者の思いを聞くと、「3人でも三崎中学校で卒業したい」という思いが、子どもたち自身にも保護者にも強い。できるだけそういった方向で努力したいと考えている。

大谷小中学校は現在、特認校として、通学区域を市内全域とし、希望すれば市内どこからでも通える学校になっている。したがって、宝立小中学校やみさき小学校についても、通学区域をなくして特認校とし、市内全域から通える形にすることは制度上可能である。大谷小中学校では、

校区外からの通学の送迎などは保護者の責任としている。

加藤委員長

三崎中学校については、今の1年生が卒業するまでは維持していくということが、現実的な対応として考えられるという話であり、保護者・生徒の意見もそうであれば、その形がよいのではないか。みさき小学校については、高学年は卒業まで残したいという意見があり、これから入ってくる子どもを考えると、保育園で一緒だったことから統合を望む意見が強いように感じる。

宝立小中学校については、特認校という形を取り、市内全域から、例えばより少人数の学習を希望する親子が通える選択肢として残す可能性もある。今後も地域、保護者、何より当事者である子どもたちに情報を伝えながら、引き続き検討を進めていただきたい。

加藤委員長

もう一つのテーマである統合小学校の立地について、三つの案が示されている。どの場所が子どもたちの学びの環境として、また地域の拠点としてふさわしいか、意見をいただきたい。

田喜知委員

A、B、Cが基本線になっていると思うが、「特色のある学校づくり」と「スピード感」を考えた時に、三つの候補地以外では、蛸島ジャンボリーが開催された跡地も考えられるのではないかと意見をいただいた。震災廃材置場として使われた後、かなり広い更地になっており、ホースパークも近くにある。鉢ヶ崎海岸、野球場、テニスコートなども近く、「自然の中の学校」という特色を出せるのではないか。

スポーツ施設を集め、ビーチホテルもあるので、夏休みなどに外部から合宿を誘致するプランをつくれれば地域活性化にもなるのではないかと、という意見もあった。この三つ以外ではジャンボリー跡地、この三つの中から選ぶのであれば、スピード感を持って進められるC案がよいという意見である。

高井委員

直地区にはグラウンドゴルフ場はあるが、それ以外に運動できる場所が少ない。今の陸上競技場は小学校の運動会やグラウンドゴルフなどにも使っている。陸上競技場に学校を建てると、工事期間中はそこが使えず、「どこで運動したらよいのか」ということになる。できれば、今の緑丘中学校の敷地に建てる方がよい。

将来的に緑丘中学校校舎の建て替えが必要になるのであれば、現中学校の敷地内に新校舎を整備する方法も検討してみたらよいのではないかと。

辻委員

今でも緑丘中学校の前は、スクールバスや保護者の送迎で朝かなり車が混んでいる。ここにも一つ学校ができると、さらに混雑するのではないかと。蛸島でもよいし、三崎の外浦側でもよいので、そういう場所も選択肢の中に置いてもよいのではないかと。

加藤委員長

送迎の動線をどうつくるかは、統合校をつくる時には非常に重要である。志賀町で複数校を一つに統合した際も、各地域から多数のスクールバスが入り、保護者の送迎も加わるため、どう配車するかで苦労したと聞いている。校舎を建築する上で、保護者の送迎、スクールバス、公共交通をどう運用し、子どもたちが地域から通いやすくするかは、しっかり検討する必要がある。

多田委員（宝立地区）

私はC案がよいと思う。A案やB案は途中でいろいろな手続きが入る。今の工事でも入札が遅れたり、いろいろなことが起きているので、工程として一番実現可能性が高いのはC案ではないかと個人的には思う。陸上競技場を使うのであれば、その間、陸上競技場の機能をどこに移すかは別に考えるとして、とにかく今残っている子どもたちのために校舎は早くつくってほしい。

加藤委員長

子どもだけ、高齢者だけということではなく、すべての世代が集まって遊んだり、体を動かしたりできる場所をどうつくるかという視点も必要だと思う。学校整備を、そうした場を改めて設計する機会と捉えることもできるのではないかな。

梧委員

蛸島の立場から申し上げる。先ほどのジャンボリー跡地の意見は非常にすばらしいと思って聞いた。緑丘中学校は建設から約60年で、将来的には建て替えの話も出てくるだろう。ジャンボリー跡地は土地も広く、小学校、中学校の両方を建てることも可能ではないかと思う。

市長は以前からジャンボリー跡地を「ジャンボリーの聖地」と言っているが、その聖地も大事ではあるものの、子どもたちの今後や、能力を伸ばすことを考えると、学校の場所としてよい意見だったと思う。

泉谷市長

陸上競技場に校舎を建設する場合、その学校のグラウンドをどこに置くのかという問題がある。陸上競技場をどこかへ移せばよいというだけでなく、学校の運動場として400mトラックが取れないような広さでもよいのか、ということになる。陸上競技場の一部に校舎を建て、現在の緑丘中学校校舎の場所に陸上競技場を移すことも現実的には難しいだろう。

緑丘中学校の校舎はいずれ建て替えが必要だが、体育館はまだ活用できると思う。体育館や運動場をできるだけそのまま活用できれば、財政的な節約にもつながる。現在の緑丘中学校のプールは解体するので、その場所を活用すれば、スクールバスが出入りするスペースを設けることもできるのではないかな。

吉田副委員長

陸上競技場に建てる場合、どれくらいの敷地が必要なのかが分からないので、判断しにくい。また、A案の市民図書館隣接地について、保護者やまちづくり協議会で話したところ、学校は防災の拠点にもなるという意見があった。

市民図書館隣接地は、嵩上げをしないと水がつく場所ではないか。造成・建設工事中に大雨が降れば工事が遅れる懸念もある。また、学校ができた後に豪雨で若山川が氾濫した時、防災拠点として機能できるのかという疑問が出ていた。

加藤委員長

嵩上げや防災面はよく検討しなければならない。また、大まかでも配置案が見えてくると、具体的に検討しやすいという意見だったと思う。ジャンボリー跡地についても海に近く、それほど標高が高くないのであれば、同じような課題があるかもしれない。

吉田委員

先ほど「小学校を外浦につくる」という大胆な意見もあり、面白いと思う。ただ、保護者の立場では、小学校、中学校、高校がある程度まとまったところにあった方が、現実的には通いやすいのではないかな。

また、予算の面について、こういう場でもっと具体的な話をしてもよいと思う。学校を一つ運営するにも、人件費、運営費、維持管理費がかかる。子ども 1 人にかかる経費は、珠洲市においてはかなり大きいと思う。税金で賄われているので意識しにくいですが、珠洲市の財政状況から学校の適正な数を考えることも必要である。珠洲市は全国で人口の少ない市として、以前は 8 番目だったが現在は 4 番目になっている。輪島市、能登町、穴水町など、珠洲より先に統合を進めた地域の失敗やデメリットも見ながら進められるとよい。

糸矢委員

今までと同じ発想だけで考えず、中学校を高校と一緒にして県立の中高一貫校にするという手もあるのではないかな。中学校は県に任せ、市は小学校だけを頑張るという考え方もある。

加藤委員長

全国的には、県立の中高一貫校として進めている地域もある。珠洲でも、飯田高校を残し、特色を出すという議論の中で、中学校との連携を提案していくことは一つの考え方である。

吉木教育長

中学校を県立にして中高一貫校にするというご意見は、もっともだと思うところもたくさんある。緑丘中学校は飯田高校と隣接しており、現在もできるだけ中高連携を進めている。「ゆめかな」の発表会に中学生が参加するなどの取組もある。飯田高校も奥能登の高校魅力化に向けて新たな取組を進める必要があり、貴重なご意見だと受け止めている。

ただし、それと現在の学校統合の議論は少し分けて考える必要がある。県が関わることであり、市の思いだけでは進められないので、今後検討していく一つの課題になると思う。

新委員

校舎を早く建てた方がよいし、統合もなるべく早くした方がよいと思うが、校舎がないと統合できないわけではない。子どもに関する統合の話は統合の話として進め、建設場所、用地、設備

については専門家の情報を使って検討すればよいと思う。

例えば市民図書館隣接地、緑丘中学校敷地、ジャンボリー跡地などに、学校に必要な面積や施設を実際に配置した具体的な案があれば、皆さんが想像しやすい。そうした「絵」を示していただけるとよい。また、校舎ありきではなく、現在の校舎を活用しながら、なるべく早い段階で統合に進むことも考えられるのではないかな。

加藤委員長

統合校の校舎をつくる上で、国等の財政支援や補助制度があると思うので、その情報も改めて確認し、さまざまな助成をフルに活用して、よりよい施設をつくっていただきたい。

泉谷市長

選択肢として三つを示しているが、ジャンボリー跡地というご意見もあった。前回申し上げたとおり、そこに通う児童生徒だけではなく、保護者の方にとっても希望となるような校舎を整備したい。どちらにしても校舎を整備しなければならないのであれば、希望を感じられる施設にしたい。

多少、敷地の造成等に時間はかかるかもしれないが、市民図書館隣接地については、地権者の方にはまだ打診していない。これから打診をしながら、実現できるようであれば、校舎のデザインや配置を考える上で一番自由度があるのではないかと考えている。次回までに、皆さんがイメージを持てるような資料を示せるか検討したい。

加藤委員長

用地について大まかに意見をいただいた。現在出ている候補について、改めてより具体的に検討・比較できる資料を次回用意していただく方向が見えてきたと思う。

泉谷市長

最後に確認したい。統合に際しては、大谷小中学校と宝立小中学校は残す方向とする。みさき小学校・三崎中学校の統合のタイミングは、状況を見ながら、今この時点では確定させず、少し幅を持った形で進める。用地の選定については、次回、より具体的なイメージを持てる資料を提示する、ということでよいかな。

加藤委員長

話をたくさん出したままでは前に進まないで、今、市長からあったような大まかな方向で少し枠をつくり、議論を前に進めたい。三崎については、児童生徒がいる間は学校を残すという考え方も含め、状況を見ながら考える。用地は、次回、具体的なイメージが分かる形で示していただきたい。

村上委員

A 案だと一番時間がかかる可能性があり、どれくらいかかるかも分からない。統合したい学校から、今ある校舎を使いながら統合して、新しい学校ができるのを待つようなことは可能かな。例

えば近い学校同士から少しずつ統合し、最終的に新しい学校へ移るような方法も考えられないか。児童数が減る中で5年、6年待つと、今の小学1年生が中学生になってから小学校ができるということにもなる。

泉谷市長

既存の学校のどこかに他校の子どもたちを集めるとなると、どこを選んでも、スクールバスが多数乗り入れて安全に通学できる場所を確保することは難しい。基本的には、段階的な統合は最初の段階ではあまり望まれていないというところもある。ただし、用地造成にどれだけ時間がかかるかなどを踏まえ、思った以上に年数がかかるのであればどうするかも含めて、次回以降、選択肢として考えるための材料を出したい。

6 閉会

閉会挨拶 珠洲市教育長 吉木 充弘

委員の皆様には長時間にわたり審議、そして建設的なご議論をいただき、感謝申し上げます。第2回となる本日の委員会では、前回からの継続審議を含め、珠洲のこれからの教育環境のあり方について、より具体的で深い意見交換を行うことができた。

人口減少、児童生徒数の減少という大きな流れ、そして震災を乗り越え、未来を担う子どもたちにとって最も望ましい教育環境とは何か。委員の皆様一人ひとりから、珠洲の未来を見据え、子どもたちを真ん中に置いた温かく、かつ鋭い視点からのご提言をいただいた。本日いただいた貴重なご意見や課題は、今後の珠洲市の教育行政を進めていく上で大変重要な指針となる。本日の議論をしっかりと整理し、次のステップにつなげていきたい。